

京都の福祉

本紙は、共同募金の
配分金によってつくられています。

2012

3

No.518



発行 京都府社会福祉協議会

主な記事

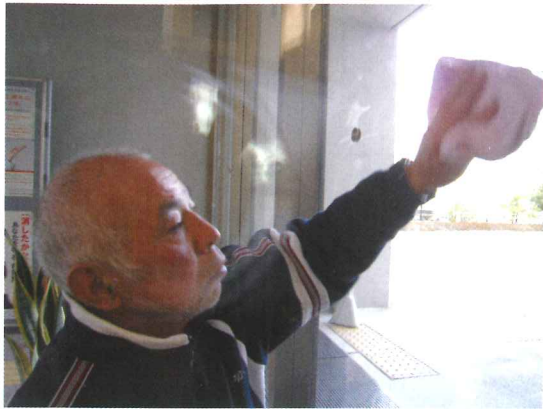
- 1面…もえくさ
- 2・3面…心をつなげあって膨大な力にしたい～NPO法人みっくすはあつ
- 4・5面…顔のみえる地域づくりを目指して
きばってます！亀岡市社協
- 6面…合言葉は、「語りつごう」やまもと民話の会
- 8面…夢中！・熱中！ふくしびと



みっくすはあつの皆さん

もえくさ

「3・11」から二年を迎えようとしている。▲「復旧はできたが復興はまだまだ。現地はまだ終わっていない。いつまで続くかわからない」（宮城県気仙沼市大島災対本部 白幡氏）、
「ふるさとがなくなってしまうかも知れない人々がいる。ふるさとに帰るにも『許可証』がいる」（福島県仮設住宅等支援連絡会議 天野氏）、「警戒区域の私たちを忘れなしてください。忘れないことがボランティアです」（福島県浪江町 山田氏）▲これは、2月11日に開催された「京都災害ボランティア支援センター事業報告会」での被災現地報告者の発言のひとつである。▲阪神・淡路大震災では、発災から約7カ月後には避難所生活者がゼロになったそうだが、東日本大震災では、発災から9カ月余を経た今年1月26日現在で、なお599人の避難所生活者が残されている（復興対策本部調べ）。2月10日に発足した復興庁の公表資料によると、避難者は全国47都道府県1、213市町村に及び、総数342,509人（2月9日現在）の方々
が避難生活を送っている。宮城県（約12万6千人）、福島県（約9万7千人）、岩手県（約4万4千人）の3県で約26万7千人（避難者総数の78%）を占める。そして、京都にも千人を超える避難者が府内18市町村で生活されている。▲先の報告会では、印象的な言葉が参加者の胸に響いた。（以下、福島県天野氏の発言より）「避難者は、仮設住宅に14.5%、借上げ住宅に45.5%、県外避難が40%。いま仮設などでアルコール依存症とDVが出てきている。住宅に『仮』はあっても生活に『仮』はない。今この瞬間が生活。避難していても生活はいつも本物。だから我々は『生活復興』をめざす。いのちを守る・生きがいづくりのための居場所づくり↓交流と自治の促進に取り組んでいく。県外避難者への支援については、それぞれの受け入れ地域でも、避難者自身の自治的な組織づくりへの支援をお願いしたい」▲報告会のおと、これまでの支援センター事業に参加協力してきた人たちの情報交換会が開かれ、その場で、「京都災ボラバンク縁（えにし）」が発足した。「縁（えにし）」は、これまでの活動を思い起こし、被災地の今を意識し、災害ボランティアで培った縁をゆるやかにつなぎ、よりよきボランティア人の集まりをめざす、としている。また、この3月1日には、府の「地域力再生プラットフォーム」の取り組みとして、「東日本大震災による京都への避難者の支援」をテーマとするプラットフォームが新たに立ち上がる。▲「3・11」は終わっていない。忘れることはできないし、忘れてはならない。そして、私たちの身近なところで一人ひとりができる支援活動を考え続けていきたい。



「みつくすはあつ」の作業を行う場所は5つに分かれています。清掃作業等を行う「くりーんねっと」、移動喫茶、クッキー、ケーキの販売を行う「コーヒーハウスぱれっと」、府内を中心に60力以上の作業所製品を販

仕事の可能性が広がる5つの職場

売する「うじ・はんどめいどショップ」、なかなか力を発揮することが出来な日替わりランチ、うじうどんを提供する「ぱうぜ」、「かんしゃ工房」です。ところ、今では日替わりランチ、うじ



喫茶接客中

自分が向いた仕事や、やってみたい仕事にチャレンジできることです。

ある仕事では 理念にもあるように「ともにある」の言葉に重点をおいて、地域の方々と

つながって活動していくことを大切にしています。無農薬・減農薬野菜の農家の方とつながりができたことや、近隣のお年寄りが買い物に出掛けにくくなっている地域の状況から、野菜の宅配を行うようになりました。今では20件程に届け、とても好評を得ているそうです。

障害分野だけではない 取り組みへの思い

ともにある ～私たちからの発信～

ひとつひとつの出会いをかがえないものに...

ひとりひとりの人生を人間らしく心豊かなものに...

支えあつてつながりあつて響きあつていこう

みつくすはあつ 理念

活動の紹介 NPO法人

就労ネットうじ 「みつくすはあつ」

心をつなげあつて 膨大な力にしたい

宇治市にある事業所NPO法人就労ネットうじ「みつくすはあつ」は2009年度に「くりーんねっと」、「コーヒーハウスぱれっと」、「うじ・はんどめいどショップ」の3つの事業を統合し、多機能型（就労継続支援A型・B型）の事業所としてスタートしました。地域に点在するそれぞれの事業所の特徴を活かし、地元だけでなく学校や団体、企業とつながり新たな活動を生み出されています。そしてその活動は障害のある人たちだけでなく、例えば高齢者や学生などともつながり、地域の大きな力になっていきます。今号は様々な取組みをされている「みつくすはあつ」に注目します。



A型・B型生活支援員主任 西川 瞬さん

また東日本大震災のボランティアの作業時のベストを洗濯する仕事も宇治市社会福祉協議会との縁がきっかけで請負いました。利用者の中でも「何かできないか」と話し合っていたので、ベストを洗濯することで少しでも被災地の方々の力になれることを皆で喜んだそうです。



でなく、府民や市民の方々に「障害」への理解を深めてもらうことを目的としています。「例えば障害のことを知ってもらおう専門的な内容のチラシを配布してもなかなかわかってもらえません。歌やダンスを通して興味を持ってもらい、伝えていく。やわらかく運動ができれば」と西川さんは言います。

「自分が支えてもらうだけでなく、自分の身に置き換えて考え、つながって



イベントでのバンド活動中

いきたい」。宅配や洗濯、バンド活動の話には、職員も利用者も障害のことだけでなく、高齢者やひきこもり等の社会課題にも取り組んでいきたいとい

う強い思いを感じました。
エコボールってなに？

これはちょっととした出会いから、元横浜・ベイスターズ（現横浜DeNAベイスターズ）選手の大門和彦氏（宇治市出身・投手）の協力により始まった取り組みです。硬式野球のボールは2枚の皮が108つの縫い目で繋がっていますが、「ものを大切に育てて、人を大切に思うつながりを広げたい！」をモットーに1球50円で糸が切れた硬式野球ボールを修理するというもの。今では先生同士で話が広がり、大学硬式野球部、高校硬式野球部、リトルリーグ等、12チームの修理を行っています。要修理のボールの回収から納品まで利用者が職員と共に行い、各チームと仕事を通じて交流を図ることで仕事のやりがいにもつながっているそうです。



「エコボール」ひとつひとつ丁寧に仕上げます



「洗濯」を通じて地域に貢献

「ともにある」と
叫びざるをえない
社会であること

取材の中で、「ともにある」あり方はいろいろあるのだと感じました。また西川さんは「何をもって地域と言うのか、変わってきている」と言います。距離としての近隣だけでなく、興味、共感を持ち深いところまでつながることができるのであれば、他府県の方たちとも支え合える。逆に言えば、近くにあっても「ともにある」ことを知らない、感じない人々はまだ多い。今後バンド活動を通して多くの団体とつながり制度のことなどを伝え、また仕事も新しいことに取り組んでいきたいと意欲的でした。

本会も「ともにある」あり方を探し、距離や分野にとらわれず支援をしていきたいと思えます。

- NPO法人就労ネットうじ「みくくすはあつ」
- くりーんねっと／かんしゃ工房
宇治市小倉町老ノ木13-1 宇治小倉マンション221号
TEL(0774)23-7920 FAX(0774)39-7124
- うじ・はんどめいどショップ
〒611-0021 宇治市宇治妙楽175-11(宇治橋商店街内)
TEL&FAX(0774)23-4816 3月5日(月)より新装 OPEN
- コーヒーハウスぱれっと(移動喫茶展開中)
- ぱうぜ
宇治市羽拍子町89-10 TEL&FAX(0774)46-1458

顔のみえる 地域づくりを目指して

亀岡市社協

南つつじヶ丘地区社協の取り組みから

亀岡市社会福祉協議会（以下、亀岡市社協）では、かめおか地域福祉活動計画『顔のみえるまちづくりプラン』（平成17年度～23年度）に基づき、住民同士の関係づくりや地域の福祉活動を推進していくための組織作りや支援を行っています。特に計画の重点プロジェクトの一つとして、地区社会福祉協議会（以下、地区社協）の整備を掲げ、地域の特色に応じた人づくり、場づくりを支援しています。今回は、昨年10月に設立した南つつじヶ丘地区社協の山本会長と亀岡市社協の濱中地域福祉係長に、地区社協設立の過程や地区社協での取り組みについてお話を伺いました。

お互いを「知る」ということが地域をつくるー地区社協設立の動きー

南つつじヶ丘地区は住宅団地として発足し30年余りが経過しています。現在は、2,250世帯、7,300人で、高齢化率は12.4%と比較的低い地域です。しかし、今後は退職した団塊の世代が一気に増加することが予想されています。

会長の山本さんは、「地区の住民の中には、それぞれが自分のライフスタイルを確立し、『互いに干渉しない』という思いがある一方、隣の人のことを知らない、顔の見えない関係に将来の不安を感じる気持ちやこの地区に住む住民としてこのままでいいのだろうか

かという思いがあった」と言います。この両方の思いをすり合わせながら、新たなつながりづくりとして地区社協設立への動きが始まりました。

平成22年7月から準備委員会では、「強制ではなく、できるだけ自由な形で認めて理解し合える関係を大切に」しながら進められてきました。亀岡市社協の担当である濱中さんは、「会議のたびに同席し、亀岡市社協として同じ場を共有すること、地区の住民の方々と顔のみえる関係を意識して関わってきた」と振り返ります。そして、計10回の

委員会を重ね、昨年10月22日の設立となりました。

地域のたくさんさんの組織が連携することで立体的につながる

南つつじヶ丘地区社協では、設立後のスタートとして、子育てサロンや高齢者いきいきサロン等を通じて、顔のみえる地域づくりに取り組んでいます。その中には、「今までそれぞれの組織で取り込まれてきた活動と同じなので



「アス会」の様子

年4回発行し、組長を通じて全戸に配布。「地区社協の存在をもっと理解してもらうために、楽しくて地域のためになるつながりづくりをしていきたい。住民から頼りにされる地区社協でありたい。」と山本会長。

地区社協 だより

2012年2月 No.201202号

亀岡市社協 南つつじヶ丘地区社会福祉協議会

全国大会にて発表 (2011-11-26)

11/26『第5回 全国校区・小地域福祉活動サミットin宇治』が宇治市で開催され、当地区も発表を行いました。発表は『無縁社会からの脱皮』というテーマで、ニュータウンでの地区社協の必要性と設立の苦労話といった内容です。全国から1000名を超える大勢の参加者で、関心の高さがうかがえます。質疑も非常に具体的なレベルも高く、素晴らしいスタッフならではのことで、コーディネーターの大谷大、山下敬俊には大変お世話になり、有意義な一日でした。

全体会議の後、10分科会に分かれて、活動報告がありました。当地区からも6名の参加で、それぞれ分科会に分かれて報告。当地区はA分科会での報告です。

自治会や町内会、地区社協等の活動や地域のつながりをテーマに実践報告や意見交換をしました。

会場風景

当地区は住宅団地として発足し30年余りを迎えています。利便性を持つ反面、住民は顔のつながりの薄い傾向があります。人口7300人、2290世帯、65歳以上高齢化率12.4%と比較的若い地域も、団塊の世代が定年を迎える時期となり、生活課題/地域課題をさせた地域福祉の充実が必要とされるようになりました。活動を通じて『顔のみえる地域』を目指し、在野の協力活用も図りながらいきいきと生活している地域となるよう努力してまいります。

発表のタイトル

無縁社会からの脱皮

☆ 顔のみえる地域を目指して

地域福祉コミュニティ（地区社協）立ち上げに際して

亀岡市 南つつじヶ丘 地区社協 山本 眞之介

トピックス

- ・全国大会(宇治市in宇治)
- ・設立記念講演会
- ・子育て、高齢者サロン
- ・大谷大学 実践研究会
- ・ローテチャップス
- ・愛楽ボランティア勉強会

設立記念講演会 (2011-11-19)

地区社協設立記念として、大谷敬定氏を講師に『近所付き合いの大切さ』について講演会を開催しました。小学校の多目的ホールには校長先生をはじめ、若い方からお年寄りまで大勢の参加者で、講演途中で皆で歌を合唱することもありました。

子育て & 高齢者ふれあいサロン (2011-11-22)

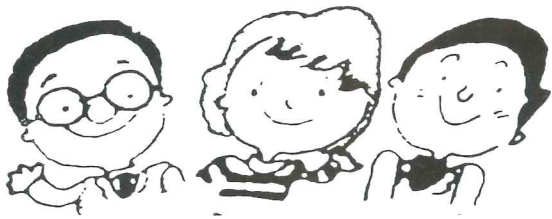
第1回高齢者いきいきサロンの開設にあたり、子育てサロンとのコラボレーションを企画しました。小さな子供とお年寄りの「遊びを通じての交流の場」として、楽しい時間をお過ごし頂きました。

高齢者ふれあいサロン
子育て交流会

写真：交流会の様子、高齢者ふれあいサロンの様子、地域活動の様子、ボランティアの活動、地域交流の様子、地域活動の様子、地域交流の様子、地域活動の様子、地域交流の様子

～市町村社会福祉協議会の活動紹介～

きばってます!



楽しく顔のみえる関係づくり「高齢者ふれあいサロンのミニクリスマス」



考えています。

現在は、地域防災マップ（セーフティマップ）の完成に向け、話し合いを

は「ないか」という声もあり。しかし、山本会長は「同じように感じる活動でも地区社協として行事をするので、それぞれの組織が有機的につながるきっかけとなった」と言います。さらに「地区社協の構成組織が協働でひとつの事業に取り組むことを通して、全体を見渡すことができ、福祉課題の発見にもつながる」と

重ねています。民生児童委員、主任児童委員の連絡先やこども100番の家、避難経路等、地区の住民にとって、どのような内容を盛り込むことが役立つのかということについての議論が続いています。一つ一つの話し合いの積み重ねを大切に、住民の意識を広げていく取り組み。動き始めた南つつじヶ丘地区社協の今後が期待されます。

地域とともに育ちあう 開かれた社協を目指して

このような取り組みを通じて濱中さんは、「南つつじヶ丘の取り組みはまだ始まったばかりなので、これからも顔のみえる関係を維持しながら一緒に事業に取り組んでいきたい」と考えています。また、2月5日にも新たに亀岡地区中部で地区社協が立ちあがりました。「地区によって、地域性によって働きかけもさまざま。その分、地区社協の支援は楽しく、住民の方の地域に対する思いを間近に感じることができ、頼もしく感じる人が多い」と言います。「地区社協の事業が各々の地域で発展していくよう支援していくことで亀岡市全体の地域力を高めていくことにつながっていければ」と今後の取り組みへの思



いを語られました。

「地区社協と連携することでそれぞれの役割ができ、お互いのよさを伸ばしていく—それが、市社協のやりがいにもつながる」という濱中さんの言葉からは、地域の特性を意識しながら地域住民の思いや力を大切に、寄り添うことで亀岡市社協も地域とともに成長していくことを強く感じました。



やまもと民話の会のメンバー

(第1集はじめにより)

5月になって避難生活の私の小さい部屋に集いました。(中略)残った6人、顔と寄せて今回の震災体験を語り合った時、私たち自身にも悲壮なバノラマを見ることくドラマがありました。

「語りつぐ」をあいことばに民話をやってきたこと…この震災を語りつがなければ、の使命と責任を感じました。

テープレコーダーもないパソコンもない向かう机もない今だからこそ、真実を伝えられるのでは…と。

自然にはさからえないんですはむかってはならないんです自然と睦みあって、これからもこの命を大事に生きよう。

合言葉は、「語りつぐ」

『語りつぐ・証言—小さな町を呑みこんだ 巨大津波』(やまもと民話の会)

未曾有の大震災といわれた東日本大震災から3月11日で、1年が経ちます。

地域の復興へさまざまな取組みが進められる中、あの日の体験を記録として聴きとり、語りつぐ—そんな活動が地域と人をつないでいます。

宮城県山元町で地元の民話の探訪、再話、語りべとして活動をされていた「やまもと民話の会」。避難生活を続ける中、会員の方々によって町民の体験を集める活動が始まり、8月に『語りつぐ・証言—小さな町を呑みこんだ 巨大津波』(第1集)としてまとめ、12月には第2集の発行となりました。

第1集は会員の身近にいた人たちからの聞き書きや体験談を、第2集では『声なき声に寄り添う』をテーマとし、被災体験に加えて半年後の様子、仮設での生活、また町の文化財の様子を集め、掲載しています。

代表の庄司アイさんは、「町民にとって、今が一番乗り越えるのに大変なとき。仮設で大変な思いをしている人たちの支えに少しでもなれば。」と第3集への思いを強くしています。自らも被災し、さまざまなお思いと向き合いながらも、語りつぐ活動に、地域の復興を支える住民の力の強さを感じます。

東日本大震災 復興支援バス 心はひとつ—宮城県亶理郡山元町へ

平成24年3月20日(祝・火)、3月22日(木)、3月29日(木)の3回にわたって、復興支援バスが催行されます。参加者は山元町で2日間にわたって、側溝清掃作業などを手伝い、ボランティア活動を行います。

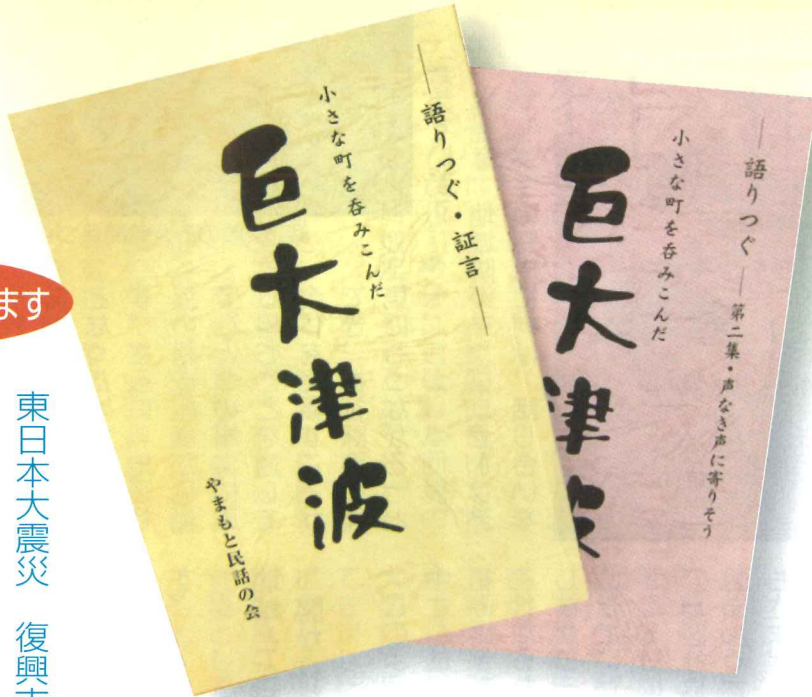
■お問い合わせ

京都リビング新聞社グループ(株)アローズ TEL075(2556) 8411

■後援 京都府社会福祉協議会・京都リビング新聞社

東日本大震災から1年を迎えました。これからも一人ひとりができる支援を続けていくことが大事なのではないでしょうか。

支援は続いています



復興支援バス

3泊4日(車中2泊旅館1泊)
参加費 おひとり23,000円

A5判127ページ、第1集、2集とも1部500円で頒布。3月末には第3集の発刊が予定。問合せは、宮城県亶理郡山元町浅生原字日向13-5 山元町歴史民族資料館内 (0223-37-0040) やまもと民話の会事務局 まで

ご案内

参加費
無料

「心地のいい つながりって何?」

日時:2012年3月31日(土) 13:00~17:30

会場:京都社会福祉会館ホール4F (堀川通竹屋町西入ル 二条城北側)

■講演 13:05~14:10

「弱さが強い絆をつくる~『べてるの家』に学ぶこれからの生き方~」

■講師:横川 和夫氏(共同通信 元論説兼編集委員 「降りていく生き方」著者)

■シンポジウム 14:10~15:20

「これからの絆を考える~あなたもわたしもできること」

■映画上映 「人生、ここにあり!」 15:30~17:20

申込みは…京都府社会福祉協議会

①名前 ②住所 ③TEL ④所属をご記入の上

(FAX : 075-252-6310

Email : shien@kyoshakyo.or.jp まで

勇気ある一歩を



ボランティア保険

わずかな保険料で、傷害部分(ボランティア自身のケガ)と、賠償責任部分(活動中他人の身体・財物に損害を与えたとき)が補償されます。

保険料一名につき

Aプラン 300円 Bプラン 500円

ボランティア・福祉活動等行事保険

福祉事業総合補償制度

まごころワイド

問い合わせ・申込先

(福) 京都府社会福祉協議会

京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町375
TEL 075-252-6295

取扱代理店 株式会社エスアールエム
専用ダイヤル 075-822-8613
引受保険会社 三井住友海上火災保険株式会社

※この広告は保険の特徴を説明したものです。詳しくはパンフレットをご覧ください。
3-B-09.4059 2009年10月作成

ご寄付

ありがとうございます
ございました

平成24年1月30日(月)
ハートピア京都にて京都府
生命保険協会(大谷直志会
長)の車両寄贈式が行われ
ました。同会では社会事業
の一環として、生命保険会
社の募金を基に、福祉巡回
車の寄贈を毎年行っていま
す。本年は与謝野町社会福
祉協議会へ車両が寄贈され
ました。



京都府生命保険協会大谷直志会長(写真右)より
与謝野町社協江原会長(写真左)に車両キーが手渡されました。

■お詫びと訂正

2月号に掲載いたしました「施設を地域の財産に~誰もが気軽に集える場を目指して~」
の記事に誤りがありました。リフレかやの外観の写真右上の「北近畿端午鉄道」が正しく
は「北近畿タンゴ鉄道」です。読者の皆様ならびに関係者の皆様には深くお詫びいたします。

夢中!・熱中!ふくひびと

～だから続けたいこの仕事～

福祉の現場で働く人たちの熱い想い・メッセージを伝えるコーナーです。京都府内で“熱い福祉”を“夢中”で実践している方々にスポットをあてて、元氣や楽しさ、やりがいを“生”の声でお届けします。

“食育”を通じて

子どもの成長を支援

朱一保育園栄養士 橋谷 雅子さん

私は、中学生の時から食べるのが好きだからという理由で栄養士を目指すようになりました。栄養学を学ぶために大学に入り、福祉施設や給食センター、病院などへ実習に行きました。それぞれの

日、昼食とおやつを提供しています。また、子どもたちに給食を通して「食」に興味を持ってもらえるよう、食育にも力を入れています。季節に合った食育を心がけており、昨秋には魚を好きになってもうため、子どもの目の前で鯖を三枚おろしにさばきました。私はこれまでに魚をさばくことはもちろん、触ったこともありませんでしたが、先輩に教えてもらい、自宅でも何度か練習し当日を迎えました。魚の説明をし、さばいていくと、子どもたちは真剣な眼差しで見えていました。その後、給食にさばいた鯖の塩焼きを



私は自分の勉強してきたことを、これから成長して大きくなっていく子どもたちに対して活かしていきたいと思うようになりました。そして保育園で栄養士として働くことにしました。

出すと、魚が苦手な子が積極的に食べている姿が見られました。「苦手でも食べてみよう」と思うきっかけ作りができ、やりがいを感じられた瞬間でした。

これからも様々な食育を通して、子どもたちに「食」に興味を持って、食べることに楽しいと思えるように育って欲しいと思います。



プロフィール

施設名：社会福祉法人たんぼ福祉会 朱一保育園
氏名：橋谷雅子
職種：栄養士
経験年数：1年
好きな言葉：成せば成る
夢中になっていること：岩盤浴・美味しい韓国料理屋さんを探すこと



「京都の福祉」へのご意見、ご感想、とりあげてほしいテーマなどをお寄せ下さい。表紙の写真も募集中です。(テーマ「笑顔」)

本会へのご意見等は、左記URLの「お問合せフォーム」を通じてお寄せください。

京都の福祉

発行所 京都府社会福祉協議会

発行人 宮本 隆司

〒604-0874 京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町375

TEL 075-252-6291 FAX 075-252-6310

URL <http://www.kyoshakyo.or.jp>